

第 58 回 日本生殖医学会

2013.11.15-16. 兵庫

BMI は単一胚移植において影響を及ぼすか？

医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

市橋 佳代、赤松 芳恵、佐藤 学、姫野 隆雄、大西 洋子
井上 朋子、伊藤啓二郎、中岡 義晴、森本 義晴

【目的】肥満は女性の妊孕能低下に関連し、BMI (Body mass index) の上昇に伴い、妊娠率が低下し、流産率が上昇することが報告されている。今回、単一胚移植症例の着床およびその予後に対する BMI の影響について検討した。

【方法】2010 年 1 月から 12 月に当院で単一胚移植を行った 1586 周期を対象とした。BMI によりやせ群 ($18.5 < \text{BMI}$) 標準群 ($18.5 \leq \text{BMI} < 25.0$) 肥満群 ($\text{BMI} \geq 25.0$) の 3 群に分類し、臨床成績の比較検討を行った。

【成績】やせ・標準・肥満群はそれぞれ 247 例 (15.6%)、1211 例 (76.3%)、128 例 (8.1%) で、移植時の年齢、移植回数、子宮内膜厚には差を認めなかった。新鮮胚移植 (361 例) における妊娠率は 27.9%、31.9%、23.8%、生児獲得率は 23.0%、26.2%、9.5% で差を認めなかった。凍結融解胚移植 (1225 例) における妊娠率は 43.0%、35.7%、26.2% と肥満群は有意に低下した ($p < 0.05$)。生児獲得率は 30.6%、25.3%、18.7% で肥満群はやせ群に対して有意に低下した ($p < 0.05$)。凍結融解胚移植を胚盤胞移植 (514 例) と分割期胚移植 (711 例) に分けて比較したところ、胚盤胞移植では妊娠率、生児獲得率に差を認めなかった。しかし、分割期胚移植では、妊娠率がそれぞれ 29.9%、24.8%、11.6%、生児獲得率がそれぞれ 17.5%、15.8%、5.8% となり、肥満群で有意に低下した ($p < 0.05$)。流産率はすべての群で差を認めなかった。

【結論】今回の検討で、BMI の影響は新鮮胚移植では認められなかったが、凍結融解分割期胚移植において BMI の上昇により妊娠率と生児獲得率が低下することが示された。今後はさらに症例数を増やし、採卵数や受精率、総ゴナドトロピン量などについても検討していきたい。